

東松山市制施行60年の 産業の推移と振興について

第14期 歴史・郷土学部 A 班



黒鳥 征治、小高 棣、坂ノ上 敏昭、◎岡田 耕太郎、関 恒夫、佐藤 次男

岡田 一成、一林 清子、大野 秀典、○柴田 幸亮

石川 祐子、川端 公子、●小林 よね子、滝瀬 みさ子

◎:リーダー、○:サブリーダー、●:会計

目次

プロローグ

第1章 はじめに

第2章 農業の推移と振興(担当:滝瀬、石川、岡田(一)、柴田)

第3章 商業の推移と振興(担当:川端、岡田(耕)、佐藤)

第4章 工業の推移と振興(担当:小林、小高、坂ノ上)

第5章 観光の推移と振興(担当:一林、黒鳥、大野、関)

第6章 おわりに

プロローグ

好奇心を育み、おおらかな心を持ち、夢の大切さを知り、真摯であるなどわが町「東松山」の風土が創り出す財産である。

2015年に朗報が届けられた。わが町出身の梶田隆章さんがノーベル物理学賞を受賞したのだ。これを機に、風土の財産に自信を持ち、わが町「東松山」の未来に向かって進もうではないか。

第1章 はじめに

1.1 テーマ選定理由

東松山市は、市制施行60年を経過した平成28年に「住みたい、働きたい、訪れたい、元気と希望に出会えるまち 東松山」をめざして、本年度から10年間のまちづくりの指針となる「第5次東松山市総合計画」を策定し、実施に向けて走り出している。

私たちは、その中でまちづくりの柱として、元気で活力のある、にぎわいのまちづくりに向けた「活性化」に着目し、産業（農業・商業・工業・観光）の各分野の市制施行60年の推移の調査・検討を実施し、東松山市きらめき市民大学生の一員として各分野でどのような振興策が、提案できるのかを纏めた。

1.2 活動経過

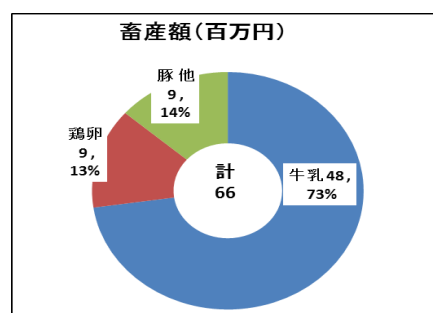
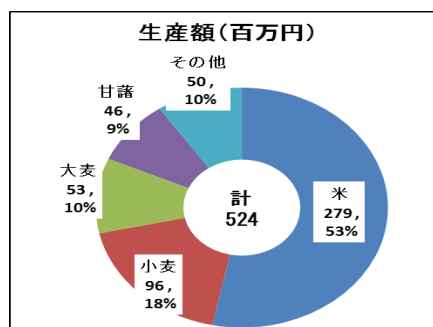
年月日	場所	活動内容
1月21日	教室	学部で課題研究の班割を決定
3月10日	教室	課題研究テーマを「東松山市市制60年の変遷」に決定 4班に分かれて調査することを決定
	講堂	出前講座「第5次東松山市総合計画に関する説明会」に参加
3月17日	市役所	(観光)政策推進課、商工観光課、ウォーキング推進室を取材
4月26日	市役所	(農業)東松山市役所農政課 千代田章男氏を取材
5月11日	市役所	(観光)東松山観光協会を取材
6月 1日		(農業)埼玉中央農業協同組合の高橋利治氏、坂本勝行氏を取材
6月22日		(農業)東松山市正代在住の鈴木知恵氏を取材
6月27日	商工会議所	(商業)東松山市商工会経営指導員 村田秀樹氏に面会
7月27日		(観光)国指定文化財コース巡回を行った
8月 2日		(農業)東松山市早俣在住の鹿田直明氏を取材
8月 3日		(観光)のんびり歩いて散策コース巡回を行った
8月26日		(観光)体験型コース巡回を行った
8月31日		(農業)東松山市大谷在住の石川治子氏を取材
11月19日		(観光)東松山市内観光ツアーに参加

第2章 農業の推移と振興

2.1 農業の変遷

2.1.1 東松山市市制施行時の農業

1953年に施行された町村合併促進法に基づき、1954年7月に東松山市が発足した時点における主な農産物（生産額・524百万円）は、図のとおり、米が全体の53%（279百万円）、次いで小麦（96百万円）、大麦（53百万円）の順であった。又、畜産物は、図（畜産額）のとおり、牛乳が48百万円で全畜産額（66百万円）の73%を占めていた。



2.1.2 市発足から現在までの推移

(1) 主要農産物作付面積の推移

下記表に示すように各農産物とも減少した。

年次	品目	稲	麦類	豆雑穀	いも類	野菜
1960		1691 ha	1471 ha	154 ha	339 ha	274 ha
1970		1353	576	69	78	248
1980		884	224	26	37	91
2010		352	31	14	3.5	28

特に、芋類、麦類の減少は著しく、ピーク時の3%以下になった。

(2) 家畜飼養農家数の推移

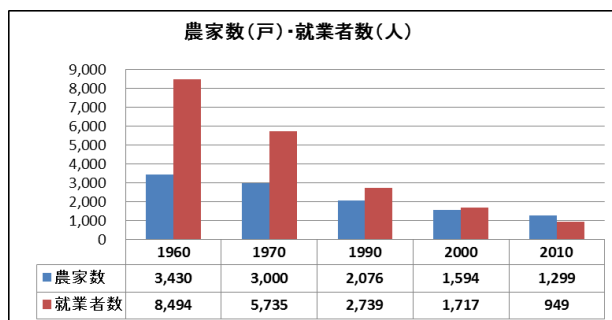
1960年～2010年 50年間で乳用牛368戸から1戸、肉用牛1,562戸から5戸と衰退した。

(3) 養蚕農家数推移

1951年2,195戸～1980年863戸と、この30年間減少し、養蚕の衰退は著しい。現時点における記録は無く、消滅したものと考えられる。

(4) 農家数、農業就業者数の推移

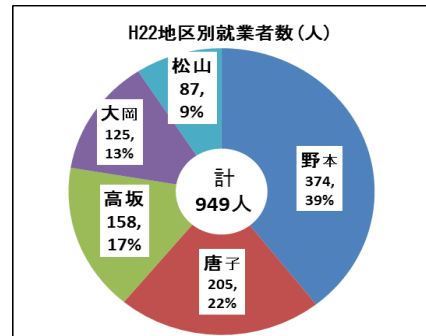
農家数は50年間で3,430戸から1,299戸に減少し、農業就業者数も減少傾向に歯止めがかからず、50年間で8,494人から949人となった。この間政府は農業政策として、1971年（昭和46年）の「総合振興計画基本法」（土地改良事業、農業構造改善事業等）や1977年（昭和54年）の「農村総合整備計画書」等で農業の振興、農村労働力の流出の防止を図ったが、過去50年を見ても、全体農産物の作付けは日本経済の進展による工業化などによって減少を招き、農業人口・農作地の減少は止まることはなかった。



2. 1. 3 最近の農業の状況

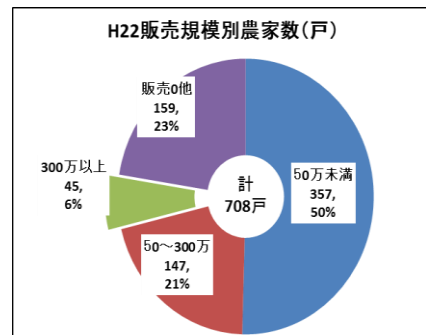
(1) 地区別就業者数

2010年（平成22年）における農業就業者数は949人で、地区別では、野本地区が374人で最も多く、次いで唐子205人、高坂158人、大岡125人、松山87人であった。



(2) 販売規模別農家数

2010年（平成22年）における農産物販売規模農家数708戸中、販売額が300万円以上の農家戸数は45戸、他の663戸は300万円未満。又は、販売無しであった。従って、農業だけでは生計が成り立たないと考えられる。



2. 1. 4 農業協同組合の活動

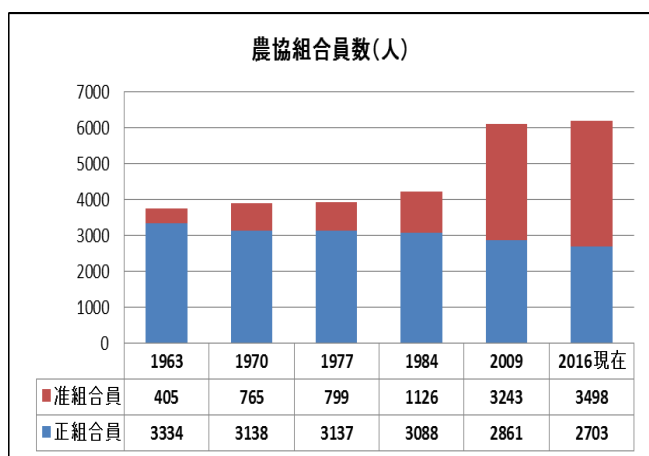
1947年（昭和22年）に制定された農業組合法により、翌1948年（昭和23年）には旧5町村（松山町、大岡村（大谷・岡郷）、野本村、唐子村、高坂村）に農業協同組合が設立された。東松山市農協は市発足後10年を経た1964年（昭和39年）に設立した。

更に1996年（平成8年）4月、比企地区管内8組合（東松山市、滑川町、嵐山町、埼玉小川、都幾川町、鳩山町、川島町、吉見町）合併。更に2001年（平成13年）4月東秩父村と合併。新生「埼玉中央農業協同組合」が発足し、2016年（平成28年）20周年を迎えた。

(1) 農協組合員数の推移

組合員数は設立時3,739人（正組合員3,334人、准組合員405人）が、20年後の1984年（昭和59年）には4,214人（正3,088人、准1,128人）と約10%増加した。

その内訳は正組合員（専業農家従事者）数が微減しているのに対し、准組合員（非農家一般者）数は約2.8倍に増加していた。更に合併後2009年（平成21年）の東松山農協組合員数は6,104人（正2,861人、准3,243人）



人）であり、現在2016年（平成28年3月）の組合員数は6,201人（正2,703人、准3,498人）と、准組合員が益々増加している。

2.2 現状と今後の課題

現在、農業従事者人口の約6割は、60・70歳世代が担うのが現状で後継者不足である。新規参入を試みても多額の初期費用を必要とし、生産物の流通及び価格が不安定であり経済面で厳しい事も現状である。

2.2.1 現在の施策

(1) 公益財団法人東松山市農業公社(平成7年3月設立)の役割と販路推進

国・県の補助事業も終了し、現在は水路維持管理支援を続行中である。

戦略的作物の「とうもろこしピュアホワイト・オリーブ・白菜・人参」は、農協の販路推進で企業との契約栽培により、ブランド化で収益安定を確立。又これらを基に担い手の育成・確保に農業塾や就農相談会を開催し、農地幹



旋・技術・資金支援や、認定農業者には法人化への支援実施をしている。耕作放棄地対策として、公社事業の農地中間管理機構の仲介により貸与・譲渡で農業の振興を図り、休耕地を活用し収益増加を構築中。

(2) 農業特産物の開発と第6次産業化

生産(第1次産業)に、加工(第2次産業)や流通、販売(第3次産業)迄の工程を一括で行い、付加価値を付ける事(1次+2次+3次=第6次産業)で、ブランド化と収益性の高い農業の実現と活性化を図っている。



《特産物》和栗ポロタンは「ポロール」ケーキ、梨はジュース、ジャム、ゼリーに加工販売。

国分牧場では、独自開発の飼料で若牛を飼育し、精肉と加工品(ハンバーグ)を自宅と直売所で販売。

《いなほてらす》は、

規格・札も出品者自由設定。

又、管外保健所の農薬残留抜き打ち検査等があり安心安全の商品提供と地産地消を推奨し、生産者同士及び消費者との文化交流の場でもある。



2.2.2 農業形態の実例 (きっかけと今後について取材)

(1) 無農薬有機栽培農法 石川 治子氏 (大谷地区)

環境問題に関心が有り大学卒業後生家に戻り、独学で土壌改良に専念。有機農法に取り組み10年間試行錯誤の連続。現在販路先に合わせ、半年毎の契約栽培で多品目野菜を生産。他に通販及び対面商法で販売している。

将来は循環型農法で山羊を飼育し、搾乳から乳製品加工と有機野菜提供のカフェを開店したい。夢は自給自足生活と語る。

(2) 公社事業実例・大農業経営者（田畑 50 畧耕作） 鹿田 直明氏

東京から 1979 年 47 歳早俣地区に転入。借地（田 3 畧）で兼業農業開始。生家が長野県農家であり躊躇なく参入出来た。公社事業の休耕地借受けにより耕作地増加。2004 年（平成 16 年）農業認定者の指定を受け、地主約 250 名の田畑を耕作。収穫米は即 J A ライスセンターへ出荷。

2016 年 7 月 1 日付けで農業法人登録（株式会社鹿田農場）。社員若者 3 名（後継者の長男を含む）で運営。IT を活用した若者農業を実践中。休耕地貸借は 5 年間で 2 倍、益々増加の傾向にある。耕作物の変更を視野に入れ「食＝農」を続行し、若者起業家・後継者育成に貢献したい。定年後就農、専業農家になり 11 年、現在に至る。まだまだ勉強中です

(3) 農協女性部・2011 年 4 月 初の女性理事に就任。 鈴木 千恵氏

嫁ぎ先（高坂正代）が専業農家。現在も稲作と野菜を生産。販路先、米は J A、野菜は直売所。耕作は人馬から機械へ移行して田 1.4 畧と畑を兼業農家で維持している。農業は自然環境に左右され毎年毎年 1 年生。

同時に、「生産技術の確立・普及＝所得増大」旬の作物を届けることと、最良の商品を生み出す事に、一喜一憂の日々。

2. 2. 3 新たな農業（農業には耕作地が必ずしも必要ではない。）

【工場生産型、水耕栽培】

生産場所は廃校・廃工場やビルのロビー、屋上、山村等でも実践。

千葉県柏市でビニール/発泡スチロールハウスの露地栽培は、稼働中。

肥料・水・光合成は L E D 使用（エコ農業）・無農薬野菜を生産。

《利 点》 天候に関わりなく収穫、多種類野菜生産と先取り出荷で需要供給均衡。商標化で収入安定。又、消費者の要望に即対応、味覚・重量・アレルギー体質対策も可能である。作業は、IT で 24 時間管理調節。棚段使用で軽作業、未経験の老若男女問わず生産者になれる。

個人から団体へ。法人起業家・会社経営者へ・・・

《問題点》 初期投資が必要。旬物や根菜類は、土壌自然太陽光が勝る。

《販路先》 契約企業/店舗。対応工夫次第で独自の販路開拓が無限である。

『消費者の購入選択』範囲は拡大、食材生産工場・露地生産方法は異なるが、消費者の要望、要請に応える事は企業の技術向上となる。

現在、研究中のフィルム農法（薄い膜）は厳しい環境場所（砂漠、空中＝水無し）を選ばず対応可能。砂漠と屋内空間は既に成功し、葉物野菜・花卉植物生育進行中である。〔無重力宇宙船内で野口聡一氏も実験〕次世代向き斬新なフィルム農法は、期待大である。

【今、農業は無限の広がり産業である】

第3章 商業の推移と振興

3.1 東松山市の商業の流れ

商業班は東松山市の商業の流れを「商店会」の成り立ち移り変わりからみようと思う。

3.2 商店会の歴史

3.2.1 商店会のおこり

後北条氏（小田原北条氏）の時代、松山城の西側の台地末端に「松山本郷」という商業を主とした場所が設けられた。商は市（五・十の市）として河畔で行われた、その川が市野川と呼ばれた。天正14年、本郷が手狭になり、川の西側に新宿ができた。新宿は本郷よりも城に近く、本郷を本宿（元宿）と呼ぶようになった。

町を東西に走る旧407号線の北側に走る小路がある。日高・熊谷間の元々の通りであった。明治に入った時代はこれがメイン通りであり、通りに沿って店が建ち並んでいたという。

しかし道路の狭小は商売の流通に不便であり、旧407号線が開通するに至る。すると商店がより便利さを求めて旧407号線（本町通り）沿いに移動・新設を始め、「本町商店会」のおこりとなった。

3.2.2 商店会設立と伸長

明治・大正と時代が動き東西の要路に元宿の南北（鴻巣・小川）の道路が交差し（札の辻）バス路線ができあがると、釘要跡地から松山・越生線と交差する通りが、賑やかになりだした。材木町並びに松葉町の通りであり材一商店・共同組合、材二奉仕会（統合し、材一商工研究会）、東松山一番街、松葉町商栄会等が活気に満ちた賑やかな商店会の走りとなった。

3.2.3 鉄道の開通

1923年（大正12年）に東武東上線の武州松山駅（現 東松山駅）が開設したが、開設当初は町の公共施設・既存の商店会からも遠く、駅利用者等の購入などの利便性が急務となり、松山・越生線の道路沿いに順次商店の進出が進み局（郵便局）通り商店会（現、まるひろ通り商店会）、箭弓町共栄会（現、ぼたん通り商店会、箭弓町駅西口商店会）などが作られた。

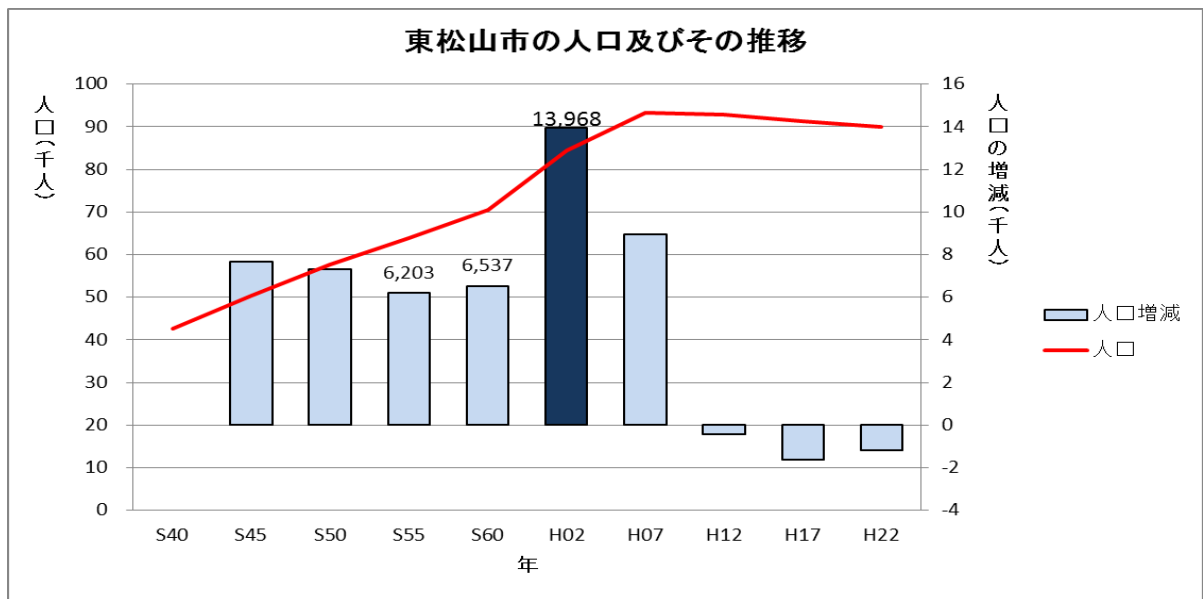
3.2.4 東松山市誕生

1954年（昭和29年）に松山町・大岡村・唐子村・高坂村・野本村の町村合併により「東松山市」が誕生した。そして時代は高度成長期から安定成長期へ移行し、経済成長と相まって各旧村においても商店会の設立の機運が起き、次々と商店会が形成されていった。

時代は交通網の発達を促し輸送の時間・量を要求することとなる。

昭和50年代に関越自動車道東松山インターチェンジが開通し、輸送の拠点として新郷地区に東松山工業団地ができた。他に住宅ベッドタウンとして

の東松山マイタウン並びに高坂ニュータウンの造成が始まった。



その結果

昭和 50 年から昭和 60 年の 10 年間に 13 千人

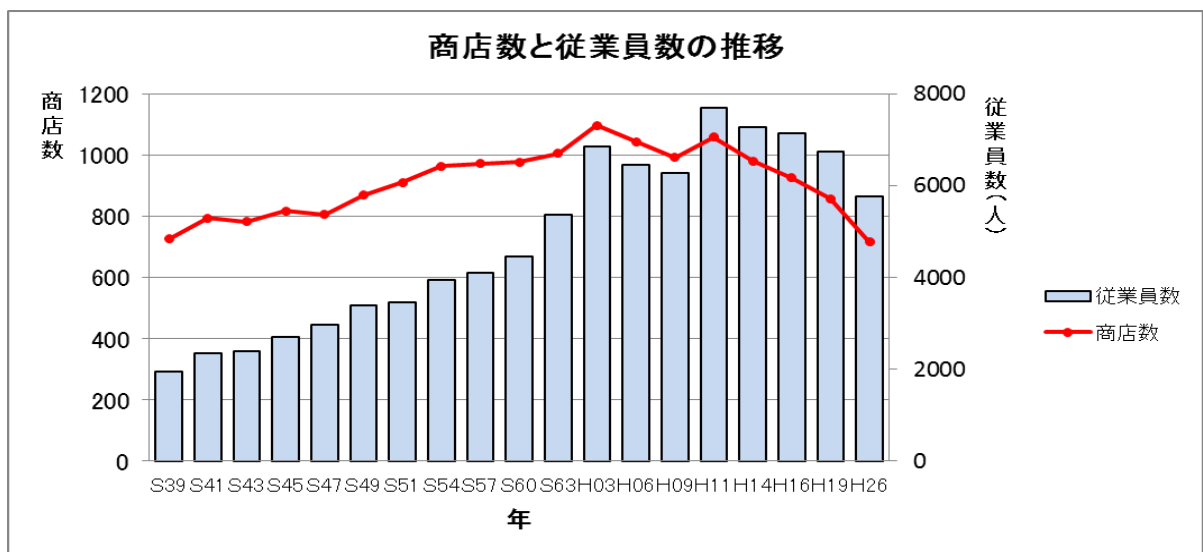
昭和 60 年から平成 2 年の 5 年間に 14 千人の多いなる人口増加となった。

一方、平成 12 年から人口減少に転じた。

3. 2. 5 バブル崩壊

そんな東松山市の人口増加が続く中 1990 年（平成 2 年）には時の大蔵省より出された「土地関連融資の抑制について」いわゆる総量規制によって景気後退・信用収縮と進み経済の悪化、消費の低迷となった。すなわちバブルの崩壊である。

このつけは重く商店会の行方を阻んでいった。21 世紀になるも景気はデフレのまま推移し浮上の兆候が見えず、わが町の商店会も苦戦を強いられシャッター通りと云われる現象が起きてきた。



3.2.6 高坂地区の商業

一方、高坂地区は、戦国時代の豪族であった高坂氏が越辺川と都幾川に挟まれたこの地に高坂館を建設、その周辺にできた街が高坂宿であった。江戸時代には江戸から上州を結ぶ川越・児玉往還の馬継場として整備され、その後八王子から日光を結ぶ千人同心街道も整備され、江戸から明治時代には賑わいがあったが、東武東上線の開業に伴い、次第に宿場としての機能はなくなり、現在ではほとんどが民家になっていった。

1986年（昭和61年）に高坂駅の西口が周辺の開発と同時に開設され、当駅の表玄関口となった。周辺の鳩山ニュータウン（昭和46年分譲開始）、高坂ニュータウン（昭和59年分譲開始）へ向かう路線バス、昭和42年開設の大東文化大学、昭和52年開校の東京電機大学及び昭和64年開設の山村学園短期大学のスクールバスの発着口となり、「彫刻の道」と呼ばれる幅の広い歩道を持つ駅前通りには、喫茶店や安価な食堂等の学生や単身者向けの飲食店が多く見受けられた。

一方、東口も2010年に国道407号沿いの大型ショッピングモール「ピオニウオーク東松山」ができ、ニュータウン（むさし緑園都市うらら花高坂）も開発中である。更に東口周辺も高坂駅東口第一土地区画整理事業により区画整理や駅前広場等が計画されている。

高坂の商店会は東松山商店会連合会の高坂支部として、駅を中心に西は松風台、東はピオニウオーク東松山を含む広域の商店会を形成している。

3.3 東松山市の商店会の今後

我が町東松山市には現在幾つの商店会があるかご存知だろうか？

当市と同じような歴史を持つ川越44・熊谷は36となっている。当市は現在19の商店会がある。果たしてこの数、多いのやら少ないのやら。

3.3.1 新世紀21

市の発展に商店会・商工会・商工観光課も手をこまねいてはいない。地域起こしとして数々のイベントを展開している。100円商店街・町ゼミ・よさこい陣屋まつり・ひがしまつやま花火大会・サンバカーニバル・親子で歩こうハロウィンなどである。また商店会の会員が数多く協賛する地域通貨「ぼたん圓」の発行も行っている。

又、次表の主な取り組みで記した地域密着の季節ごとの祭り・盆踊り・ナイトバザール・夢灯路など多彩に行われている。全てを知っている方は、果たしてどれほどいらっしゃるか・・・？商店会が盛り上げる努力を続ける中でも、商店会に加盟を続ける店が減ってきているのが現状です。ここまで松山の商店会の成り立ちから広がり、そして現状を見てきたが今後の展望・課題については最後に述べる。

商店会（所在地域と主な取り組み）

商店会名	地域	
	概要、主な商店	主な取り組み
東松山一番街	材木町	
	小売店	七夕祭り
中央通り商店会	材木町	
	小売店、飲食店、サービス業	ダブルチャンスセール
材一商工研究会	材木町	
	小売店	夢灯路
ぼたん通り商店会	箭弓町	
	飲食店、サービス業(美容院等)	サンバカーニバル(年1回)、ナイトバザール
箭弓町駅西口商店会	箭弓町、幸町、和泉町、五領町、加美町	
	小売店、飲食店、理美容店	納涼風鈴祭り(箭弓神社境内)
松山町商店会	松山町、市の川、松葉町	
	マミーマート	夏祭り、椿地蔵尊祭り、輪投げ大会
まるひろ通り商店会	松葉町、材木町	
	小売店、丸広百貨店	よさこい陣屋祭り(年2回)
東部地区商工協議会	広域(松本町、御茶山町、六反町、山崎町、六軒町、砂田町、新宿町、大字松山、小松原等)	
	飲食店、小売店	地蔵尊供養祭り、満月の夜の落語会
松葉町西部共栄会	松葉町、材木町、美土里町	
	小売店、シルビア	納涼盆踊り大会
本町商店会	本町	
		夢灯路、ハンキングフラワー実施
若松町商店会	若松町	
		納涼盆踊り大会
松葉町商栄会	松葉町	
		七夕祭り(八幡神社境内)
神明町共進会	神明町	
		神明町お祭り広場
東平商栄会	広域(東平、大字東平、大谷、沢口町、殿山町、石橋)	
野本商店会	広域(上野本、若松町、古凍、下野本、柏崎、下青鳥、上押垂等)	
	飲食店、自動車関連サービス業	野本商工祭、野本地区まちづくり納涼盆踊り大会
高坂商店会	広域(高坂、元宿、あずま町、宮鼻、西本宿、正代、早俣、岩殿、田木、毛塚、松風台等)	
	飲食店、サービス業、ピオニウォーク	高坂商工祭、納涼盆踊り大会
東松山駅東口商店会	箭弓町	
	飲食店、ザ・ブライス	キャンドルナイト
東松山美吉共栄会	広域(日吉町、加美町、松山、小松原、大字松山等)	
		納涼カラオケ大会、ビンゴ大会
唐子商店会	広域(石橋、上唐子、下唐子、新郷、石橋、大字石橋、下青鳥、下野本、石倉 等)	
		唐子商工祭

3.4 商業の展望・課題

各商工会は地域性に富んだイベントを通年定期的に企画し実施してきている。取り組みも手馴れてきた感がある。ある程度の集客はみこめている。しかし加盟会員の減少が各地区で起きており継続が年々困難になってきている。

東松山市人口ビジョンによると2040年には総人口は79千人(89千人)、15才から64才は43千人(56千人)、65才以上は26千人(22千人)と高齢化が予想され、所謂買い物難民が増えてくる。これに対処でき得るのが商店会の各店舗ではないだろうか? (()内は2015年の人口)

第4章 工業の推移と振興

4.1 東松山市の工業の大きな流れについて

東松山市の工業の大きな流れは、下述のようだとされている。

明治維新直後から旧松山陣屋土族によって松山製糸工場（現 日本シルク）に代表されるような企業が盛んに起こされた。

本格的に、産業としての工業が進出してきたのは、1940年（昭和15年）にディーゼル機器（現 ボッシュ）が、当市に同社初の工場を設置したことに始まるとされている。現在においても、ボッシュ東松山工場は同社の日本国内における中心的な工場でこの工場の誕生によって自動車機器（現 ボッシュに統合）などの関連会社が市内に多く設置され、当市の経済に大きく関わることになった。

高度成長期になると、1975年に関越自動車道東松山インターチェンジが開通し、新郷地区に東松山工業団地が造成されるなど、交通アクセスを生かした工場の進出が進んだ。（図-1は東松山市の工業団地の設置地区を示す。）

当市は埼玉県のほぼ真ん中で、県内各地に向かう幹線道路が集まる場所であり、又広域アクセスにおいても関越自動車道に加え、首都圏中央道路自動車道（圏央道）に近いことから、近年では物流拠点として開設する企業が目立っており、2014年に誕生した東松山葛袋産業団地には、食品製造業や流通業等が、また石橋地区にも流通倉庫業の立地が決定した。

現在は松山地区にも藤曲産業団地が整備中である。このような背景の中で、今回工業の中の製造業について考察することとした。

4.2 工業（製造業）の推移

表-1 東松山市の製造業の推移

各年12月31日現在

年度	事業所数	従業員数(人)	(内 訳)		製造品出荷額 (万円)	備考
			男(人)	女(人)		
()は平成						
1992(04)	269	11,891	8,190	3,701	27,155,786	
1995(07)	234	11,345	7,675	3,670	27,745,804	
1998(10)	256	10,560	6,983	3,577	24,248,706	
2002(14)	200	8,966	6,070	2,896	19,743,517	
2005(17)	181	9,544	6,695	2,849	25,014,228	
2008(20)	176	8,520	5,726	2,794	17,110,766	
2011(23)	139	6,231	4,580	1,651	14,978,264	
2013(25)	137	6,958	4,745	2,213	14,888,157	

資料：工業統計調査
経済センサス-活動調書

表-1は1992年（平成4年）から2013年（平成25年）までの東松山における工業分野の中での製造業の推移を、事業所数・従業者数・製造品出荷額を表したものである。

4.2.1 事業所数の推移

事業所数の推移では、1992年（平成4年）に269の事業所数が2002年（平成14年）では200事業所、2013年（平成25年）では137事業所数で1992年/2013年比で49%減と大きく減少している。

4.2.2 従業者数の推移

1992年（平成4年）では11,891人（男：8,190人 女：3,701人）
 2002年（平成14年）では8,966人（男：6,070人 女：2,896人）
 2013年（平成25年）では6,958人（男：4,745人 女：2,213人）で
 1992年/2013年比では、41.5%減と事業所数の推移とリンクして、大きく減少していることがわかる。

ちなみに人口総数との関連を見てみると（表-2 参照）1992年（平成4年）の人口総数88,353人に対し従業者数は11,891人、比率で13.4%占有していたが、2013年（平成25年）では、人口総数89,438人に対し従業者数は6,958人、比率で7%の占有率である。

表-2 東松山市の人口総数推移

各年10月1日現在

年度 ()は平成	世帯数	人口			1世帯 当り人員	備考
		総数	男	女		
1992(04)	28,271	88,353	44,939	43,414	3.1	
1995(07)	30,106	91,687	46,617	45,070	3.0	
1998(10)	31,183	91,930	46,647	45,283	2.9	
2002(14)	33,220	91,571	46,381	45,190	2.8	
2005(17)	33,978	90,490	45,667	44,823	2.7	
2008(20)	34,897	89,938	45,228	44,710	2.6	
2011(23)	36,012	89,804	45,148	44,650	2.5	
2013(25)	36,641	89,438	44,871	44,567	2.4	

資料：市民課

1992年から2013年の22年間で人口総数が横ばいで推移しているのに対し、製造業の従業者数は41.5%の減少で製造業の事業所の減少が大きく影響していることが読み取れる。

従って事業所数の増加を図る必要があると考えられる。
 この対策は4-3工業（製造業）の振興で検討する。

4.2.3 製造品出荷額等の推移

表-1の中で、製造品出荷額の推移を見ると1992年(平成4年)では約2716億円、2002年(平成14年)では約1974億円、2013年(平成25年)では約1489億円と推移し、この製造品出荷額の減少も事業所数の減少とリンクして、1992年/2013年比で45%減の出荷額で厳しい製造業の置かれた状況が読み取れる。

4.3 工業(製造業)の振興

4-2の工業の推移で検討したことを纏めると、製造業の事業所数の減少は東松山市における製造品出荷額の低下を招いていることがわかる。

これから東松山市の製造業の振興を図ってゆくには、製造業の事業所数を増加させることが、必要ではないだろうか。

本年策定された「第5次東松山市総合計画」のまちづくりの柱とされている元気で活力のあるにぎわいのまちへの「活性化」に向け産業振興と就業支援の充実が課題にあげられている。その施策は

- ① 強みを生かした企業誘致の推進
- ② 既存企業への支援の充実
- ③ 創業に対する支援の充実
- ④ 勤労者・就業支援の充実 である。

そこで、上記の施策の他に、先に調査した結果の製造業者数の減少を防ぎ、そして又増加させることに対する振興策の提案を検討した。

4.3.1 地域特性を生かす・・・[振興策:企業誘致ワンストップ窓口設置]

① 東松山市は地理学的に見て、地盤が強固な土地柄といわれ、また都心に約1時間の距離圏に位置し流通の便が格段に良い点を再度新聞紙上等でマスコミにPRする。

② 水・電気・防災・環境保全・新エネルギー(太陽光発電)が充実していることの独自ビジョンが明確にされていることの更なる発信基地を再構築する。具体的には進出事業者への行政側の窓口の一本化を明確化するために「企業誘致ワンストップ窓口」の設置を提案したい。

4.3.2 産学官の連携促進・・・[振興策:強力なパーソンの発掘・育成・配置]

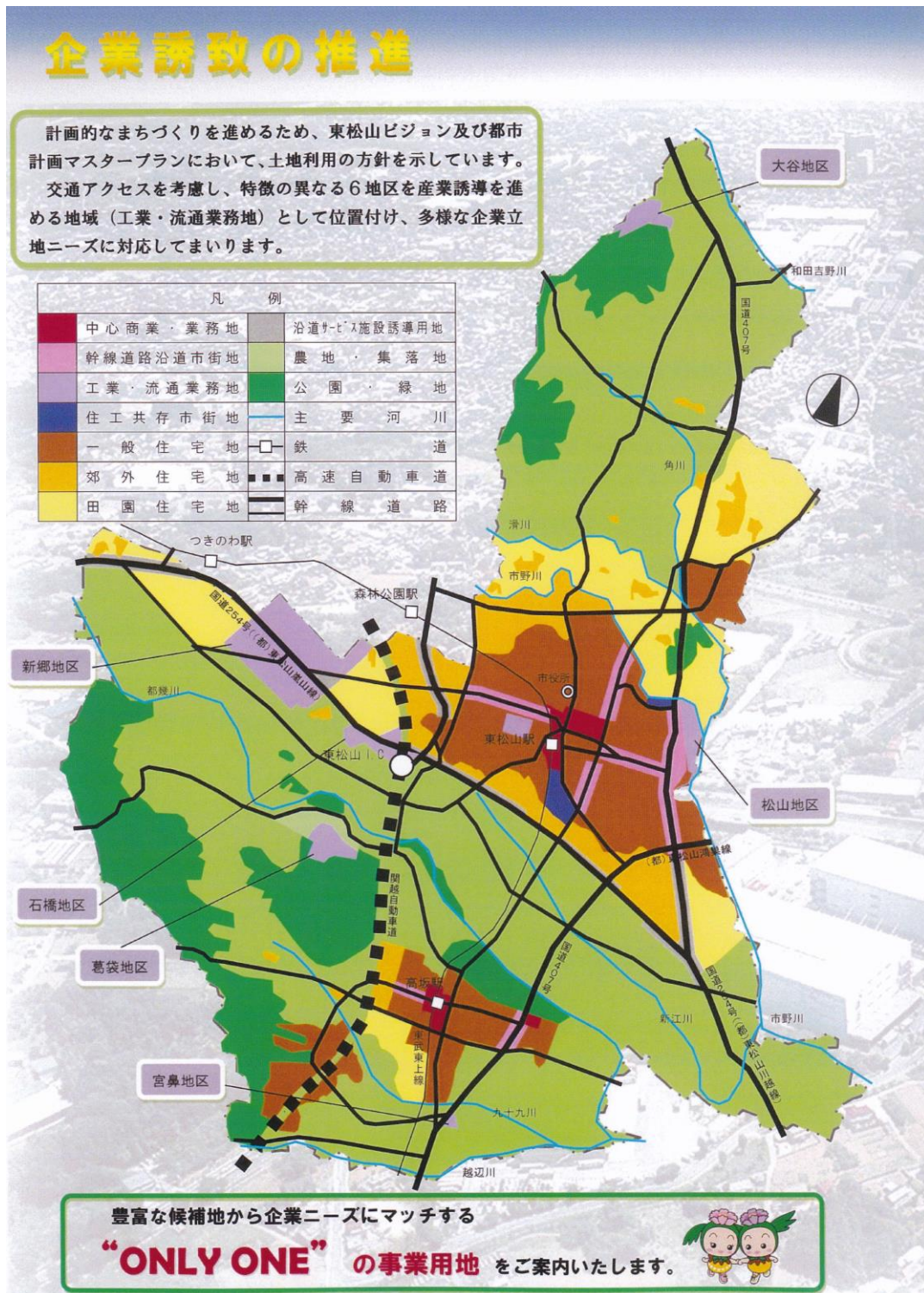
東松山近郊にある産学官による顔の見える連携・ネットワークの展開

- ① 産業界・・・ボッシュ、日立基礎研究所、日本製紙、大倉工業、伊田テクノス、野口精機、しまむら等
- ② 学 界・・・埼玉大、大東文化大、東京電機大、武蔵丘短期大等
- ③ 官 界・・・埼玉県産業技術総合センター、JAXA地球観測センター等

上記の機関との連携強化を図るために「キーパーソン」を配置し緊密な連携を図る。「キーパーソン」は、産学官から幅広く発掘する中で、若手あるいは東松山の地に生まれ育ったか、又はよその土地からやってきて東松山を

終の住処と見定めた人で東松山地域に対する「思い」の強い方がふさわしいと考える。更にキーパーソン候補を含む強力なスタッフを発掘・育成、配置する。また大幅な裁量を与えるなど自由度の高い活動条件を整え、その広域的活動のバックアップを図り、強力連携による振興策の推進を図ることも必要ではないだろうか。

図-1



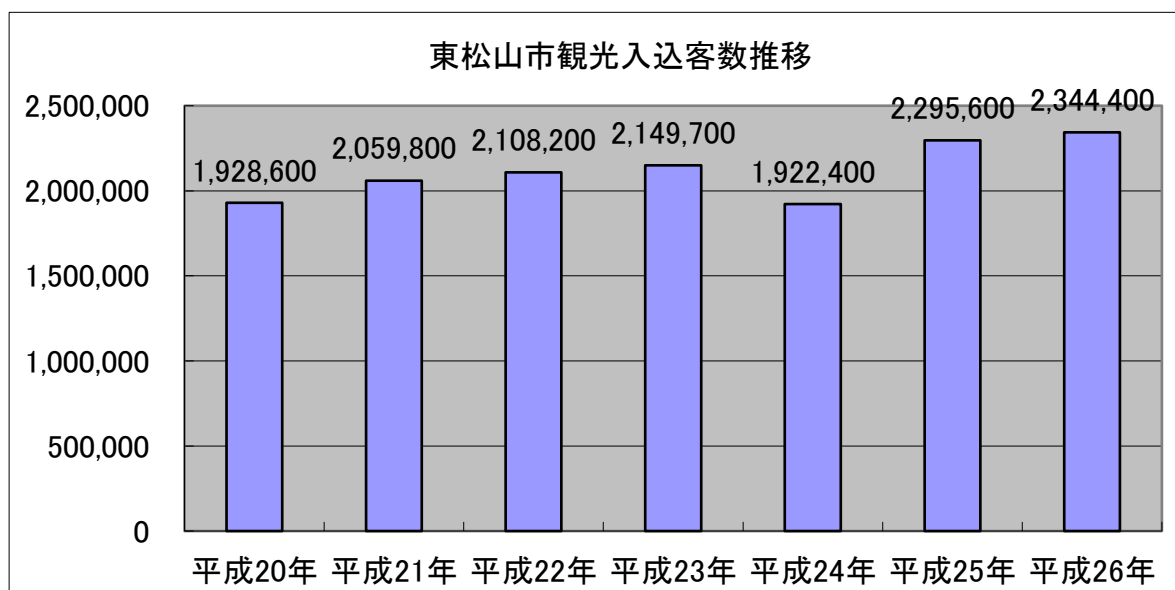
第5章 観光の推移と振興

5.1 東松山市観光客の推移と現状

「東松山市」は都心から1時間という至近立地に有り豊かな自然環境、歴史的建造物と多くの史跡そして自然・景観スポットに恵まれた「暮らしてよし、訪れてよし」の魅力的な街である。アクセスも高速道路網は関越練馬から40km圏央道県内全線開通により東名、中央道から1時間内、電車網では東武池袋から最短45分東急東横、横浜みなとみらい線との相互直通運転で「お客様を呼込む機会」は大きく拡大。観光の現状把握からはじめてみた。

5.1.1 東松山市観光入込客数の推移

① 観光入込客数の年度別推移



平成25年度は県全体95,130千人、東松山市2,295千人(県内14位)、平成26年度は全体で91,600千人、当市は2,344千人(15位)である。尚、ベスト4は1位から順に越谷市→さいたま市→入間市→川越市。

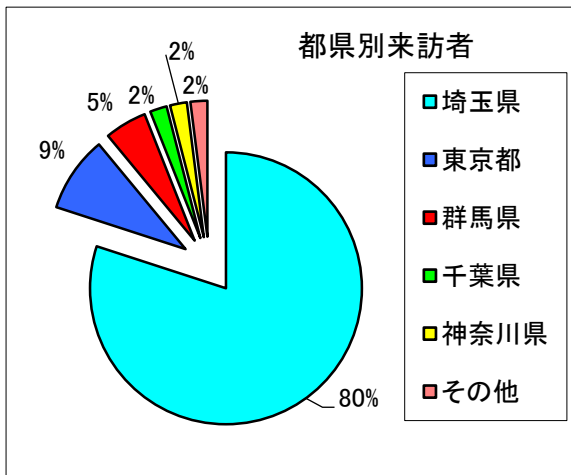
② 主要施設の観光入込客数(平成25年度) 単位：人

観光施設		主なイベント	
こども動物自然公園	727,000	スリーデーマーチ	102,000
箭弓稲荷神社	583,000	花火大会	80,000
ゴルフ場(5施設)	260,000	東松山夏まつり	40,000
東松山ぼたん園(有料)	25,000	東松山夢灯路	20,000

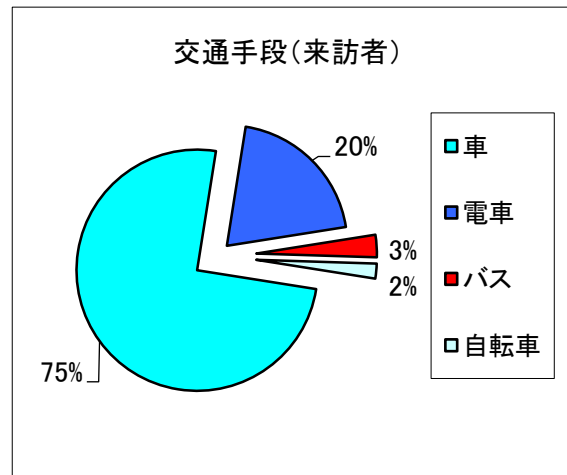
観光スポットは、こども動物自然公園、箭弓稲荷神社に代表されイベントで本年39回目を迎えるスリーデーマーチは累計261万人参加の一大イベントになっている。新たな体験型観光施設、食イベント等、活性化に向け「官民一体」の振興策が続いている。

5. 1. 2 東松山市観光の現状分析(来訪者アンケート・データ)

来訪者アンケートは東松山市観光振興基本計画（商工観光課）より抜粋。
 (平成 26 年 1 月 来訪者対象アンケート 387 人)

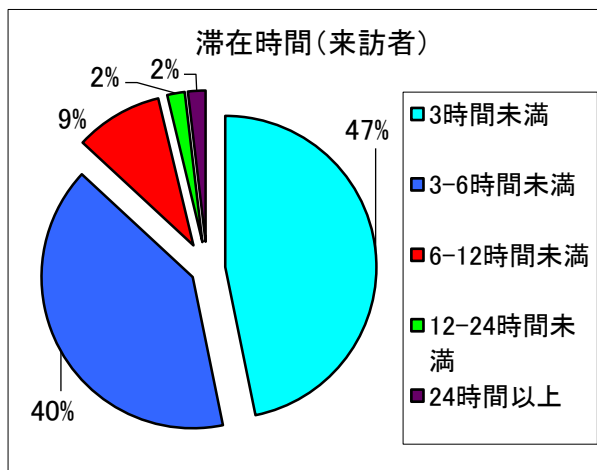


来訪者の 80% が県内であり具体的には近隣の川越, 坂戸からの来訪者。首都圏から 1 時間という強みが生かされていない。関東首都圏への情報発信が必要と考える。



来訪者の交通手段は 75% が機動力の有る車利用客。イベントの充実及び駐車場完備等のソフト及びハード両面での客の「取込み」が必要

一方、電車・バスでの「ゆったり高齢者」向け誘客対策が急務。



来訪者の 90% が滞在 6 時間未満、内 50% 以上が 3 時間未満である。観光資源を点から線で結んで「インフラ」を充実させ滞在時間を増やし「観光消費金額」の拡大に結び付ける

- 来訪者の東松山市イメージ
- 1 位：豊かな自然環境
 - 2 位：自然・景観の良いスポット豊富
 - 3 位：のんびりくつろげる
 - 4 位：歴史的建造物や史跡が多い
 - 5 位：トレッキングなどアウトドア

5.2 東松山市の主な観光スポット実態調査

目的別に下記の3コースを設定し、「一観光客」として現地に出向き実態調査を行った。

【設定コース】

① 国指定文化財コース

等覚院阿弥陀如来坐像→光福寺宝篋印塔→上岡観音絵馬市の習俗→大谷瓦窯跡

② のんびり歩いて散策コース

緑豊かな伝説の里・岩殿 7km

③ 体験型コース

くらかけ清流の郷、化石と自然の体験館、東平の梨狩り

【観光スポットを訪問しての感想】

① 国指定文化財コース



阿弥陀如来坐像（等覚院） 宝篋印塔（光福寺） 大谷瓦窯跡

■等覚院は市街地に在るも木々に囲まれ静寂な佇まい、光福寺も田畑に囲まれとても静かな寺である。拝観をお願いしたが如来坐像は見せて頂けず。残念！

■国指定文化財でありながら所有権者の裁量で見学の可否が決まるのは無念を抱く。

→「お客様目線」に立ち行政からの体制改善要求を希望したい

② のんびり歩いて散策コース

高坂駅西口→彫刻通り→足利基氏館跡（墨跡）→弁天沼（鳴かすの池）→門前町→岩殿観音（正法寺）→物見山→ピースミュージアム→こども動物自然公園



弁天沼（鳴かすの池） 門前町 岩殿観音（正法寺）

■東松山のイメージは「豊かな自然環境、自然・景観スポット、のんびりくつろげる」である。

・・・歩きながら、ゆったりと時が過ぎるシニアに優しいコースである。

■ 弁天沼から門前町、岩殿観音にかけて「地域住民の町おこしに対する熱意とチームワーク」が感じ取れた。

■ 門前町中程には是非「ひと休みスペース」が有ると良いのだが。

③ 体験型コース



くらかけ清流の郷



化石と自然の体験館



東平の梨狩り

■ 化石と自然の体験館／くらかけ清流の郷は隣接しており「化石発掘→川遊び→バーベキュー」は家族全員で楽しめ、又学習できるコースである。

5.3 東松山市観光の課題と振興策

平成 18 年に観光立国推進基本法が制定され観光立国実現に向けての国づくりが始まった。全国自治体は、それぞれの振興策を策定し誘致活動中である。東松山市でも「観光振興基本計画」を策定し官民一体となり現在進行中である。人口減少社会に向かう現在、「観光振興」は地域の継続的発展に大きく寄与する事と思われる。

観光をテーマに市関係各部署や観光スポットへ赴き、課題と振興策をまとめた。

課題	振興策
主役であるべき市民の参画意識が低い	観光振興は全市民の決意のもとに努力すれば、最終的にその利益は市民に還元される → 啓発活動促進とその為の人材育成が急務
情報発信の不足	SNS、HP、ガイドブック等にて国内外へ発信、観光PR隊、首都圏電車内の観光広告、TV旅番組相乗り
観光資源が少ない	資源創生 → 農業・工業・商業とのコラボで体験型観光「食・匠・名品」で東松山ブランド発掘、スポーツ等の国内外イベントの誘致。
二次アクセス不足	観光コース専用巡回バス運行(路線バス乗継は時間ロスあり)、デマンド・タクシー、キャンピングカー宿泊設備
ふるさと納税での観光売り込み	現在返礼品として特産品、一部体験メニューはあるが、観光ツアー(宿泊、日帰り)等での観光魅力の促進
観光客向け施設整備	宿泊、休憩、食事処、駐車場、トイレ等の設備が不足しており、滞在時間の減少の一因となっている → ホテル室数増等、各観光地で来訪者がくつろげる設備を拡充する

第6章 おわりに

東松山市の市制施行後 60 年の産業（農業・商業・工業・観光）の各分野の推移及び課題を調査した結果、次を提案する。

（農業）東松山市の農業の現状は、高齢化・後継者不足・耕作地放棄等々、問題は山積している。加え政府の「農協改革」（2015.8）に基づく改正農協法（2016.4）が施行され、従来の「農協＝農家」が変貌しつつあるなか、改めて「食」の大切さ「食育」が重要視され、農業の魅力が再認識されている。

彩の国・未来に挑戦【もうかる農林業の推進】【シニア革命】に加え、東松山市まちづくり基本計画「PDCA マネジメント」に則り、全員参画参加型の推進。農業維持継続最大重要点である従事者確保には、法人化促進による選択職種（就業先）としての確立も必要であろう。更に新形態の「フィルム農法」は斬新且つ画期的な夢農法となると考える。

4 部門産業＋官民協働で取り組む事が必須である。それが解決の近道。

（商業）商店会と行政（家並保存）学生（自由な発想によるショップ展開）、常設のイベント会場そこに商店会によるグッズ・土産品の販売、特産品による食事そこに行くシャトルバス等・・・市内滞在時間を長くする方策が必要である。

商店会の魅力の向上が急務であり、本来は楽しみ集まる消費者が参加企画できるような方策こそが今後の道筋になるのではと考える。

（工業）産学官による顔の見える連携・ネットワークの展開を図る振興策として「強力なキーパーソンの発掘・育成・配置」を提案する。

（観光）これからの観光は、一部関係者だけのものではなく地域の一次～三次産業と連携した取組が必要で、今迄以上に東松山市の「ブランド力」を高めていく必要がある。ひいてはそれが地域のインフラ整備を促し市民の力を引出して市の活性化に繋がる。観光は多くの市民が気軽に参加でき、一体感を共有でき幅広い年代層、各産業間での共有が可能なツールである。

次の3点を提案する。

1. 観光コースの具体的設定

文化財コース（名所、旧跡を回る）、のんびり歩きコース（自然、景観を楽しむ）、体験型コース（ファミリー学習／体験をする）の3コースをアピールする。

2. 博物館の設立

国、県、市指定文化財 127 点の一部展示や常時見学は見る人の新たな興味と認識を興し、「観光地東松山」の活性化を生む最善策と思う。

3. きらめき市民大学に「観光、まちづくり」の学科を創設

観光振興には、市民の意識改革、啓発が必要、その「人材育成」の場として、きらめき市民大学「歴史・郷土学部」に「観光、まちづくり」に特化した部門（学科）を設立し、社会貢献できる人材を育成する。

参考資料・引用文献一覧

- ・（農業）「東松山市の歴史」（下巻）：東松山市
- ・（農業）「東松山市の農業」：東松山市農政課
- ・（農業）「農業公社概要」：東松山市農業公社 等
- ・（商業、工業）東松山市平成 26 年度版 統計ひがしまつやま
- ・（商業）各商店会ご案内図：東松山商店会連合会作成
- ・（商業）東松山市人口ビジョン：平成 27 年東松山市
- ・（商業）Wikipedia 高坂宿、高坂駅
- ・（工業）Wikipedia 東松山市の経済
- ・（工業、観光）「第 5 次東松山市総合計画」：東松山市役所政策推進課
- ・（工業）人口・世帯数の推移：東松山市役所市民生活部市民課
- ・（工業）工業統計調査 平成 24 年「経済センサスー活動報告」
- ・（工業）ONLY ONE ひがしまつやま 企業立地のご案内：東松山市作成
- ・（工業）経済産業省 中小企業庁
- ・（観光）「東松山市観光振興基本計画」：環境産業部商工観光課
- ・（観光）平成 26 年県内市町村別観光入込客数：埼玉県 H P 入込客調査
- ・（観光）「ふるさと納税」：東松山市 H P

お世話になった方々

（農業）

- ・東松山市役所農政課 千代田章男氏
- ・埼玉中央農業協同組合 営農部長 高橋利治氏、坂本勝行氏
- ・東松山市早俣 鹿田直明氏
- ・東松山市正代 鈴木千恵氏
- ・東松山市大谷 石川治子氏

（商業）

- ・東松山市商工会 経営指導員 村田秀樹氏
- ・東松山市商店連合会会長 内山明夫氏
- ・東松山市商店会の幹部の皆様

（観光）

- ・東松山市政策財政部政策推進課
- ・東松山市環境産業部商工観光課 加藤主査、江野主任
- ・東松山市教育委員会教育部スポーツ課 ウォーキング推進室 森室長
JAPAN 3 DAY MARCH 実行委員会事務局 奥野氏、利根川さん
- ・東松山市観光協会 長壁事務局長